

道路

2012
5

May • Vol. 854

Road Engineering & Management Review



東京スカイツリーの展望（東京都墨田区）



特集 情報通信技術による道路利用者の利便性向上

地域いきいき:中国

銀の道フェスティバル～飛脚でつなぐ銀の道～

広域連携による銀の道飛脚プロジェクト：夢街道ルネサンスから日本風景街道認定をめざして



棗田 澄子 NATSUMEDA Sumiko
銀の道フェスティバル実行委員会

平成 23 年 8 月 21 日。前日からのどしゃぶりの雨の中、大森から尾道・笠岡の約 240 km を走りつないだ飛脚が、府中市お祭り広場に走りこんで来た。待ち受けていた代官衣装の府中市長の手へ、大森からのメッセージと各地の義援金を手渡された瞬間、やわらかな日差しが差し込んできた。



最終ランナーからメッセージと義援金を受け取る府中市長

銀の道（銀山街道）

戦国時代後期から江戸時代前期にかけて最盛期を迎えた、日本最大の銀山である石見銀山（大田市）。そこから銀を運んだ道は、三次から上下・府中・笠岡へと続く街道と、三次から尾道へ続く 2 つのルートが存在します。

この銀山街道は銀だけではなく、様々な人や物や情報を運び、沿線の歴史文化を育んできました。今でも各地に、往時の面影を残しており、地域の誇りや財産として根づいています。

しかし、広域的にはまだ知名度の低いものや、地域でさえ気づいていない歴史や文化がたくさん眠っています。

今を生きる私たちには、こうした先人が残してくれた宝ものを守り、活用するとともに次代に引き継がなければなりません。



伊能忠敬/伊能小図「西日本」（神戸市立博物館所蔵）

銀の道フェスティバル開催の背景

平成 22 年 11 月中国横断自動車道尾道松江線が、尾道 JCT から世羅 IC まで供用開始されました。

全線が開通すれば、尾道市から松江市まで結ばれ、中国四国地域を結ぶ新たな広域連携軸が形成されます。

これは移動範囲の拡大に伴い、新たな入込客を期待できる反面、通過者も増え入込客が逆に減少することも想定されます。そこで沿線地域でスクラムを組み、点から線、線から面への活動を展開することが有効な手段だと考えました。

現在はテレビ等メディアだけでなく、インターネットを使えば、数秒から数分で全世界に情報を伝達することができます。そんな時代だからこそ、人の脚で銀の道を走り、ゴール地点に集まった沿線の地域と継続的な活動を誓い合いたい。そんな思いで銀の道フェスティバルを開催する計画を立てました。

実行委員会のメンバー

組織名	組織の所在
NPO 法人ひろしまね	島根県
島根県立大学総合政策学部	島根県浜田市
石見銀山ガイドの会	島根県大田市
美郷町銀山街道を護る会	島根県美郷町
飯南町銀山街道を訪ねる会	島根県飯南町
三次町歴史まち協議会	広島県三次市三次町
吉舎町体験交流旅づくりの会	広島県三次市吉舎町
NPO 法人広島・せらマルバリークラブ	広島県世羅郡世羅町
尾道地域 SNS 研究会	広島県尾道市
にぎわいづくりネットワーク会議	広島県府中市
石州街道・出口地区まちづくり協議会	広島県府中市
ちょこはっぴ倶楽部	広島県福山市
温古会	岡山県井原市
笠岡商店街ネットワーク委員会	岡山県笠岡市



ワークショップの様相

銀の道フェスティバル実行委員会

夢街道ルネサンスは、歴史や文化を今に伝える「街道」を活かし、地域が主体となって、個性ある地域づくりや交流を進める中国地方独自の取組であり、銀山街道沿線でも3地区において、この取組を進めています。

また、夢街道ルネサンスとして活動している団体以外にも、銀山街道沿線において鳥根・広島・岡山の3県で活動している団体は、年間を通してウォーキングによる町おこしや、ガイドによる活動、食やイベントでの観光客誘致等、活動内容は様々です。それらが線や面でつながるには、県域を越えた交流や調整が必要です。

そこで、銀山街道沿いで様々なジャンルで活動している団体に声かけを行ったところ快く承諾いただき、県域を越えた沿線全体の組織として銀の道フェスティバル実行委員会をスムーズに立ち上げることができました。

結果的に企画からわずか5カ月半でフェスティバルを行うことができたのも、こうした人の繋がりがあったからこそだと感じました。

飛脚プロジェクト

銀の道フェスティバルのメインイベントが「飛脚プロジェクト」です。飛脚衣装を着たランナーが、交代で大森からのメッセージを、府中市まで走りつなぐ企画となりました。しかし、3月11日に発生した東日本大震災により、尊い命が失われ、大きな被害を受けました。そこで、沿道の地域で募金活動を行い、義援金として一緒に運ぶこととしました。

かつて、銀の道が全国に銀を運んだように、沿道に数



メッセージと義援金を、飛脚ランナーがつなぎます



募金活動をする鳥根県立大の学生たち

多く存在する歴史・文化・自然を再発見し、人々の営みや、温かい気持ちまでも、運び届けるプロジェクトになりました。集められた義援金は、ランナーのメッセージとともに東日本大震災の被災地に、24時間テレビを通じて届けました。

銀の道フェスティバルを終えて

銀の道フェスティバルを開催し、沿線のまちづくり団体の連携について、一つのモデルを確立した手ごたえを感じました。

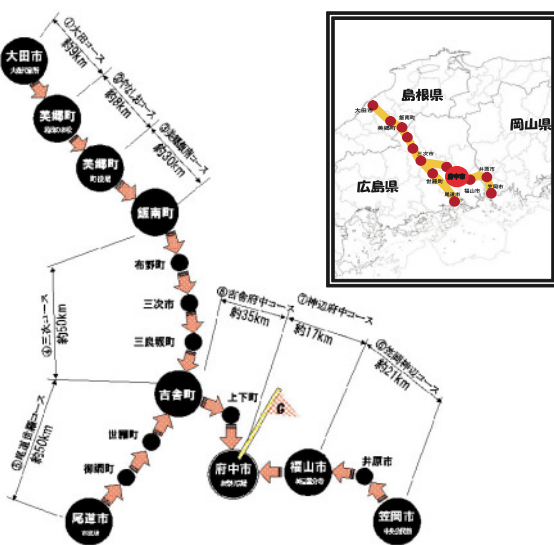
やってみて気付いたことは、行政の方々にも本当にたくさんお世話になりましたが、各市町によって企画部門、まちづくり部門、観光部門と様々な部署との連携でした。

イベントを行うには、行政やメディアとの連携を密にすることが不可欠です。そして、夢街道ルネサンス認定制度は道路部門の取組ですが、観光部門との連携についても、必要であると感じました。鳥根県、広島県、岡山県と広域での活動となるため、道の駅の活用、案内サイン・ガイドマップ等を共同で作成すること、インターネット・メディア等情報網の活用が重要となります。

そして、今後さらに実行委員会を強化し、より強固な連携をすることで、それぞれの地域や団体での活動の幅が広がり、点から線に、線から面につながると考えます。

また、行政及び各地域のまちづくり団体との連携体制も確立することが出来たので、日本風景街道認定も視野に入れる事が出来たのではないかと考えています。

今回ご協力下さいました皆様に心から感謝を申し上げます。



飛脚プロジェクト コース概略図